

ケーススタディ調査の進め方について

- 調査対象都市は、青森県八戸市、福島県会津若松市の2都市とする。
- 各種統計資料の分析や両市関係者へのヒアリングをもとに、「地域の概況分析」と「地域経済循環分析」を行う。
- このうち「地域の概況分析」については、人口動態、産業構造の特徴の把握を行い、地域資源や地域の特性を整理する。分析内容は第4回検討会で発表予定。

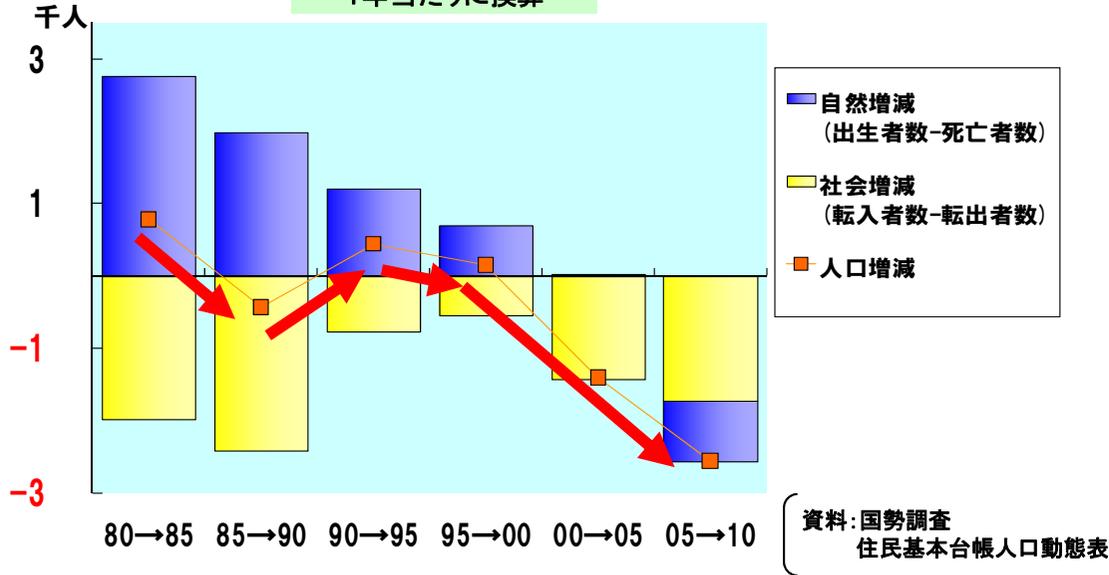
「地域の概況分析」の主な分析内容

人口	人口動態 (自然増減、社会増減)	<ul style="list-style-type: none"> ● 通勤・通学による周辺自治体との結びつき →都市圏を把握 ● 人口動態(自然増減、社会増減に要因分解)の県内外の自治体との比較
	年齢別人口	<ul style="list-style-type: none"> ● 年齢別、世代別の人口動態(年齢別人口構成については、全国、県内外の自治体と比較) ● 年齢別人口構成の過去、現在、将来予測との比較
	中心市街地の人口動態	<ul style="list-style-type: none"> ● 中心市街地10km²の人口集積状況や高齢者の割合(メッシュ統計を活用)
産業構造	商業・小売	<ul style="list-style-type: none"> ● 小売り販売額、売場面積、従業者数の動向(県内外の自治体との比較)
	工業	<ul style="list-style-type: none"> ● 主要業種ごとの製造品出荷額、従業者数の過去推移、県内外の自治体との比較 ● 市内主要企業・事業所の動向
その他	地域資源、地域特性	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光資源、公共交通機関の利便性 ● 歴史、文化、自然など地域固有のストック

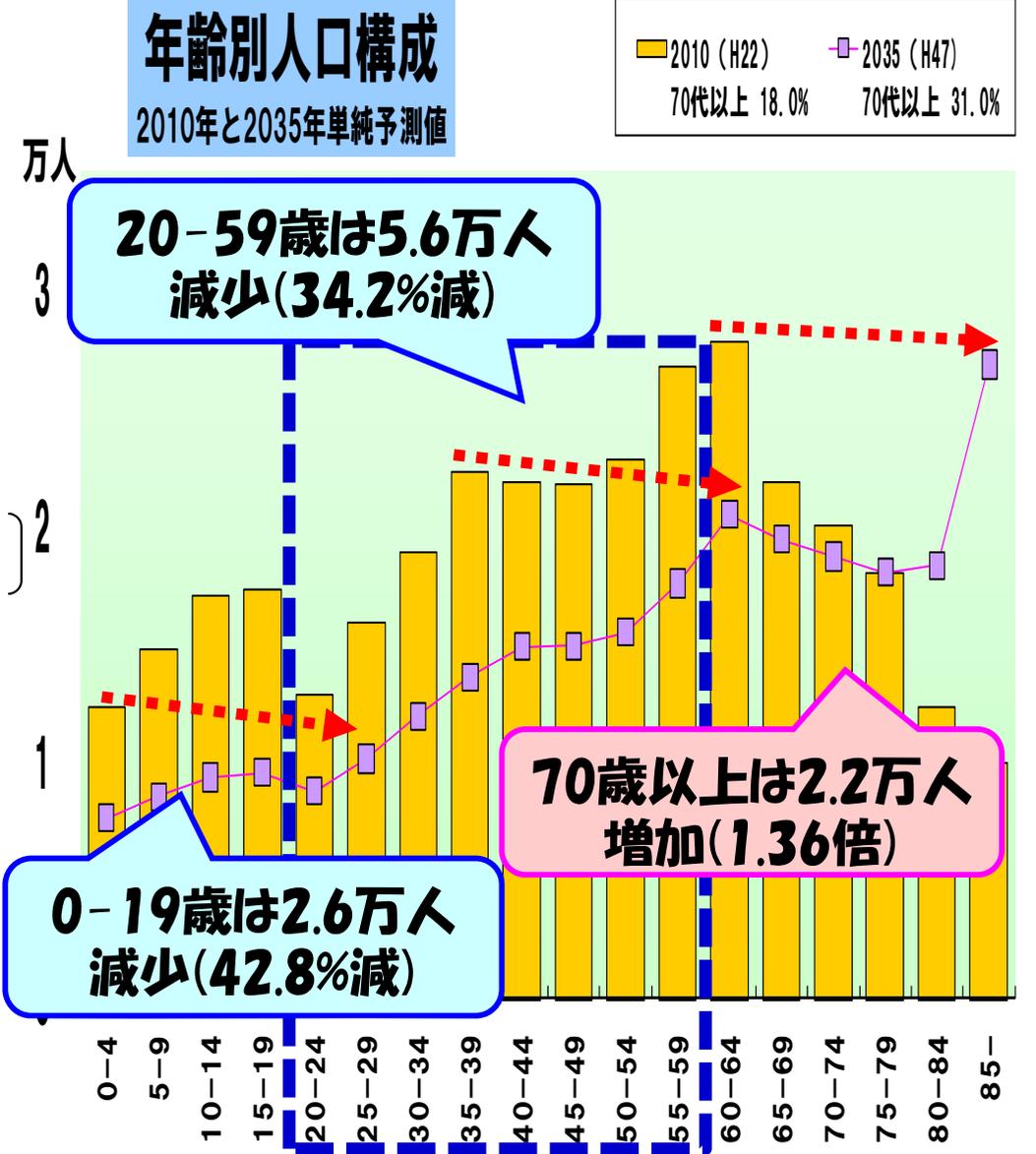
(参考1) 八戸圏域定住自立圏を対象に、DBJが2011年度に実施した地域づくり健康診断資料より抜粋
八戸圏域定住自立圏の人口動態③ 将来予測
(00年代前半の転出入のトレンドが続くと仮定したコーホート予測)



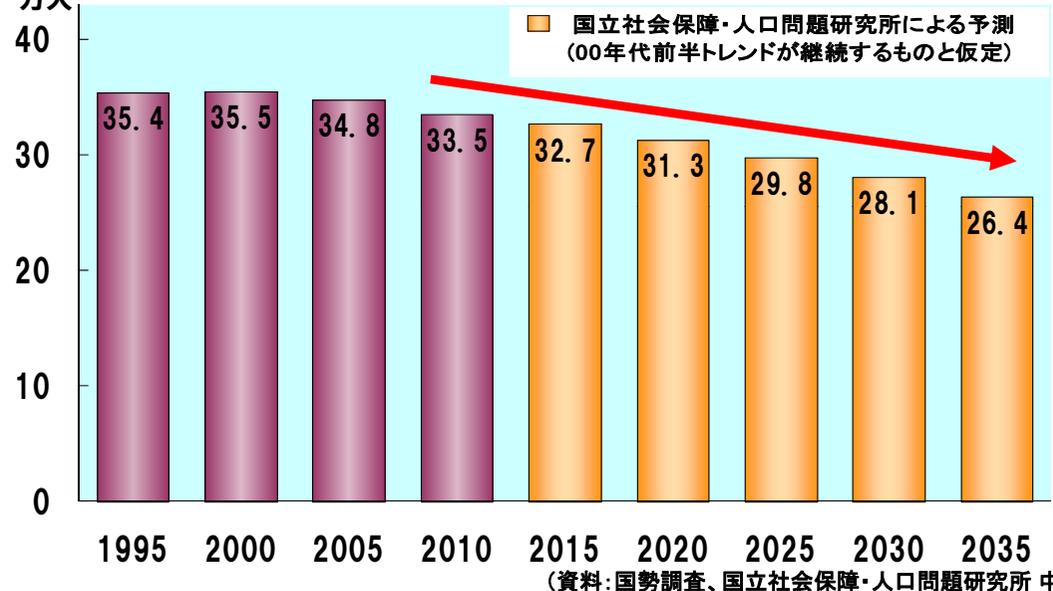
過去の人口増減
1年当たりに換算



年齢別人口構成
2010年と2035年単純予測値



人口増減 実績 & 単純予測



(資料: 国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所 中位推計)

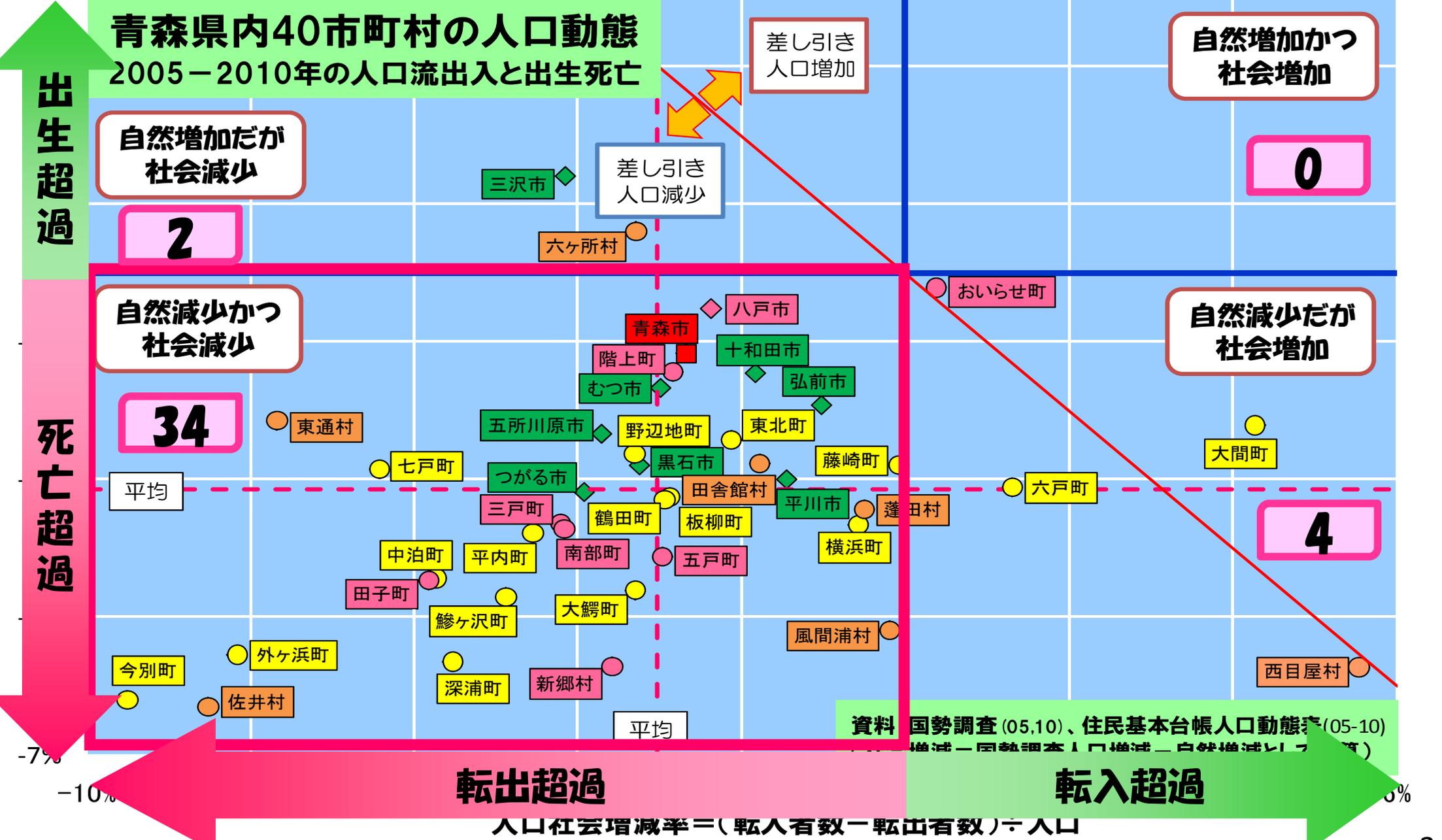
(参考2) 八戸圏域定住自立圏を対象に、DBJが2011年度に実施した地域づくり健康診断資料より抜粋



青森県40市町村(最新)の人口動態

人口自然増減率 = (出生者数 - 死亡者数) ÷ 人口

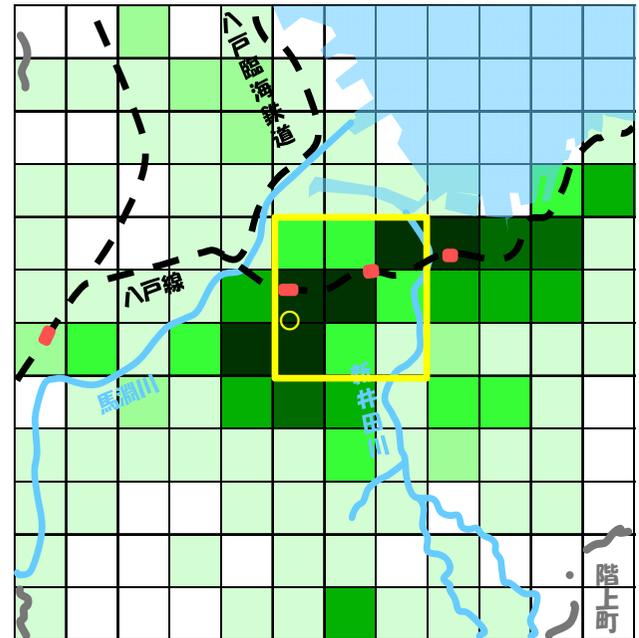
市町村 (2010年国勢調査に基づく) - 2010.1 0.1 現在



八戸市の市街地人口比較

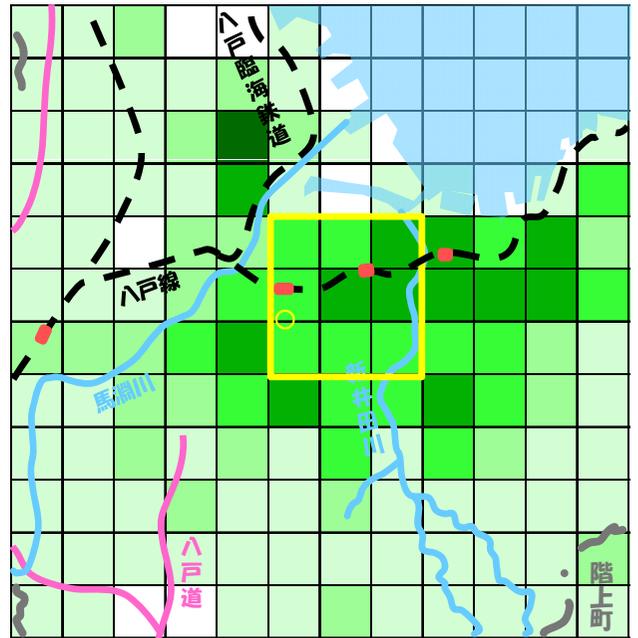
1975(S50)年

2005(H17)年



30年

**+18,587人
(+9.1%)**



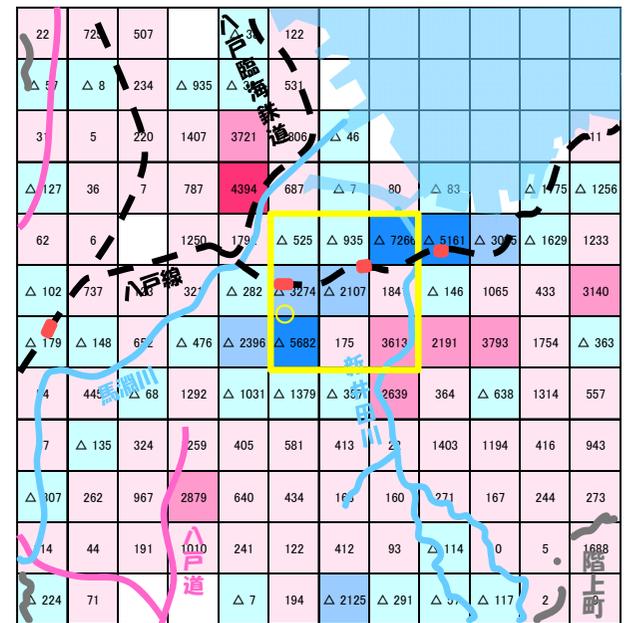
2005(平成17)年
このエリアの人口
:**222,153人**>



1975(昭和50)年
このエリアの人口:**203,566人**>



<国勢調査より作成>



八戸市 (12×12km)

<夜間人口比較>
人口:**237,615人**
(2010年国勢調査)

1975年→2005年
夜間増減比較